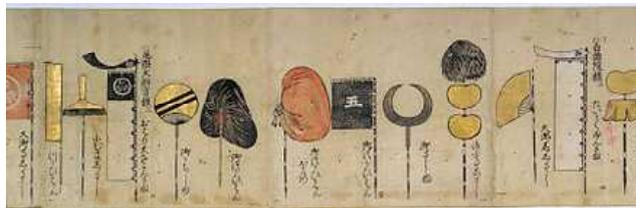




聖眼寺

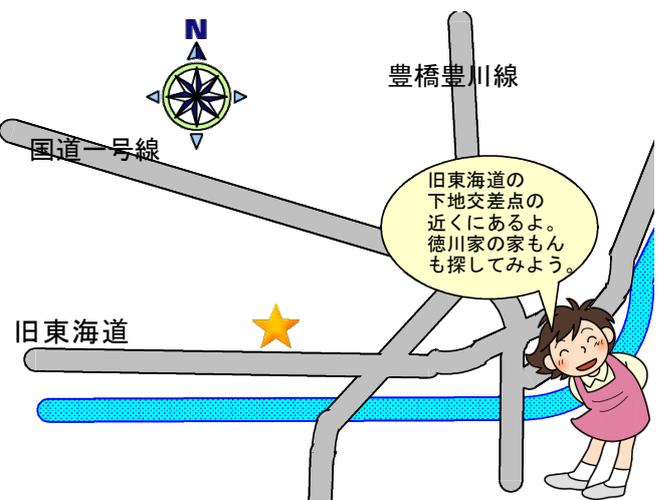
聖眼寺（しょうげんじ）は、下地にあるお寺です。平安時代に吉祥山のふもとに建てられましたが、鎌倉時代に下地に移転したといわれています。

聖眼寺は、徳川幕府（とくがわばくふ）を開いた徳川家康（とくがわいえやす）とも関係があります。1564年徳川家康が、下地の対岸（たいがん）にある吉田城（よしだじょう）を攻撃（こうげき）しました。下地合戦（しもじかつせん）のはじまりで



す。下地は最前線（さいぜんせん）となり、家康は聖眼寺に本陣（ほんじん）を構えました。家康は、聖眼寺にある太子堂（たいしどう）で必勝を祈願（きがん）し、ここで金扇（きんせん）をもらい、それを用いてさい配をふるったと伝えられています。家康が使った金扇馬標（きんせんうまじるし）は太子堂に縁起（えんぎ）があるそうです。下地合戦は聖眼寺の僧が使者として吉田城にいき和ぼくを成立させ終わりました。そのはたらきがみとめられ、聖眼寺は幕府や吉田藩からあつい保護を受けました。

現在たっている聖眼寺は、後に移転（いてん）されたもので当時の建物ではありません。しかし、いってみるといろいろなところに家康との関係を見つけることができます。



〈参考資料 『豊橋校区史48下地』 『郷土史 下地』〉